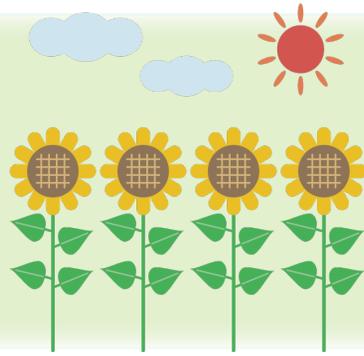


ひまわり



Vol. 37

新人職員一泊研修報告

日時：5月30日～31日

場所：観音ヶ池市民の森交流センター
(いちき串木野市)

一泊研修に参加して、他部署の新人職員との交流、座談会では新人ならではの悩みを共有することができ、たくさんの仲間がいて、自分一人だけが悩んでいるのではないということが分かり、これからも頑張ろうという励みになりました。また、先輩方が新人の悩みひとつひとつにアドバイスを下さったので、これからのローテーション研修では報告連絡相談を確実にやり、焦らず自分のペースで学んでいこうと思えるようになりました。交流センターに移動する車の中からすでに他部署の新人との交流が始まり、最初は名前も分からない状態で自己紹介をするというこぢない始まりでしたが、交流センターに着いてから他己紹介、ウォークラリー、グループワーク、食事の準備など様々な作業を通して会話する中で、新人の顔と名前を覚え、相手のことを知っていき、看護師の同期と何ら変わらない大切な仲間であると感じることが出来ました。わたしは他部署の方がどんな視点を持って働いているのか知りたいと思っていたので、事例検討などを通してそれを知ることができ、医療にはたくさんの職種が関わっていることを改めて感じ、チーム医療について考えることができました。最後に、研修が終わってから院内で新人に会うとお互いに近況を話したり、困った時に声をかけあったりできるようになり、本当に心強く、そして楽しく仕事出来る場面が増えてきました。1泊2日と短い時間の交流でしたが、他職種について知り、大切な仲間ができ、得るものが多い研修となりました。

坂口

教育委員担当として参加させて頂きました。今回で3回目の参加となります。今回は25名の参加になりました。チームワークもよく、それぞれが率先して行動ができていたように感じます。プリセプターも積極的に関わりが持っており、他己紹介や事例検討、レクリエーションなどとてもスムーズに進行ができていたと思います。座談会では、新人さんたちのいろいろな思いを知ることができ、改めて指導する側も、考えさせられる場面もありました。研修終了後楽しかったと感想も聞き、充実した研修であったと感じました。西川



集合写真

新人とプリセプターのメンバーでウォークラリーをしたり、食材を準備して夕食と翌日の朝食・昼食を作ったり、エコクラフト(ランプシェード)を作成したりなどして二日間過ごしました。一泊二日の短い時間でしたが他職種の人達と仕事以外の話も色々話してお互いを知る良い機会になりました。同じ医療現場で働く仲間として今回の経験を活かして今後も仕事のことで連携をとっていきたいと思います。

杉園



食事作り

私が今回学べたことは、大きく二つあります。一つ目は、人とのコミュニケーションの大切さです。料理での役割や班での役割など、普段の生活の中での行動を通して、他部門の方々とコミュニケーションを取りながら連携を図る事ができました。また、スムーズに作業を進めるためにはどのように役割を分担すべきなのか、自分の考えをどのように表現すれば相手に伝わるのかなどを考えるきっかけとなりました。二つ目は、チームで一つの目標に対して何かを成し遂げる事の大切さです。仲間と情報を持ち寄って1つの答えを出したり、作業を分担して料理を作るなどを通して、チーム医療の中の情報共有やお互いの役割の観点から進捗度合いを確認し、一人の患者さんに対してどう関わっていくのかを考えることにつながるのではないかと実感することができました。

総合リハビリテーション部 松木 薫



ウォークラリー

新人一泊研修に参加し、この二日間の様々な活動を通して、改めて協力することの大切さを感じました。私たちが計画した他己紹介では、他部署・多職種との交流を図るだけでなく、コミュニケーションは「話す」以外にも、「聞く」「伝える」ことの重要性、またウォークラリーや事例検討・教育ゲームでは、グループ間で団結して取り組むことの大切さを学ぶことが出来ました。看護部ではPNSを導入しており、パートナーとのコミュニケーションを図りながら業務遂行、また、看護師だけでなく、医師・リハビリスタッフやcomedicalスタッフとの連携も必須です。今回の研修を、チーム医療に活かしていきたいと思います。

座談会や新人看護師との会話の中で、新人看護師の思いや悩みを直接聞くことのできるいい機会となりました。私も初めてのプリセプターであり、不安や悩みもありましたが、病棟全体で新人を受け入れ育てる環境を整えることが大切だと実感しました。そして、自分自身も知識を深めていかなければならないと反省しました。新人さんと一緒に成長できる1年にしたいと思います。

尾崎

エコクラフト(ランプシェード)



院内研修

「看護必要度」研修を受講して

15年ぶりの病棟勤務をすることになり、「看護必要度」なるものに遭遇しました。必要度って何だろう、何のためにするのかなどと言う事はあまり考えず、日々のルーチンワークのひとつとして何となく電子カルテをクリックしていました。今回、研修を受けて、診療報酬に関わる重要な記録であることを再認識しました。しかし、その内容は研修だけでは到底理解できないような、細かい評価基準が多く、年齢を重ねて硬くなった頭にはなかなか入ってこないものですが、電子カルテという便利なツールの助けを受けながら、「頭の体操」のつもりでテキスト等も参考にしながら学んでいきたいと決意を新たに致しました。

回復リハビリ病棟 村岡



「PNS」研修を受講して

PNS研修を受講し、改めてパートナー看護師としっかりと話し合いが出来る事が再確認できました。新しい情報があればすぐに報告し合い、患者さんやその家族のためにどのようなケアをしていく事がベストなのか共に考え、実践へ移せています。しかし、日々のペアでのコミュニケーションが不足していると思われました。ネガティブな思考が出てしまい、お互いに与え合うという部分がうまく出来ていません。というより、受講するまでは与え合うという事すら頭にはありませんでした。自分の持っている情報等をペアの看護師にも伝え、患者さんとはもちろんですが、看護師同士でのコミュニケーションも積極的に行うように努力していきたいと思われました。

地域包括ケア病棟 塩屋



「コミュニケーション」研修の報告

「コミュニケーションの基本」ということで椿元臨床心理士に講義をして頂きました。講義の内容は言語的・非言語的コミュニケーションとは何か、基本的コミュニケーションの技法について解り易く説明して頂き、実際に非言語的コミュニケーションを使わずに会話をするロールプレイを行いました。[視線を合わせない、頷き・相づちを打たない、相手の顔をみない]をすることで、会話が進まず何を話してよいか分からなくなるという感想も聞かれ、コミュニケーションの大切さ・聞く姿勢の大切さを学んだと思います。コミュニケーションを図ることが難しい患者さんもありますので、今回学んだことを活用して欲しいと思います。

4階東病棟 林



院外研修

医療安全への取り組み～新たな看護基礎教育の流れ～

福岡県看護協会研修会館において「チームSTEPPS」と「米国でのカリキュラムQSENに関連して」研修に参加しました。チームSTEPPSは、医療事故の背景にあるコミュニケーションの問題を解決するためのツールで、当院でも平成23年と昨年に職員研修に取り入れ記憶に新しいと思います。日々の業務の中でブリーフィング(打ち合わせ)、デブリーフィング(振り返り)の大切さ、コミュニケーションツールを通しチーム医療推進のためには重要なツールであることを気づくことができたと考えます。

QSENとは、医療の質と安全を継続的に改善するために必要な知識、技術、態度を将来の看護師が身につける教育を普及することを目的とした全国的取り組みです。求められる医療専門職者への教育改革に5つのコンピテンシー①患者中心のケア②チームワークと協働③根拠に基づいた実践④質の改善⑤情報科学を身につけるための教育に、「安全」を保つ能力を加え6つのコンピテンシーが必要とされます。従来専門職として求められていることです。毎年入職する看護職、他職種職員に対し、医療安全管理者としてのOJT、教育が重要であることを改めて感じました。日々変化していく時代、医療界の流れに敏感に情報を得、自ら学ぶ姿勢、スタッフ教育、現場環境をつくるのが私たちの役割と言えます。

医療安全管理室 城ノ下 実千代

アジアメディカルショーに参加して

6月19日、福岡で開催された「アジアメディカルショー」に参加し、PNS開発者上山先生の話を生で聞くことができました。今までPNSという言葉だけの理解でしたが、深い内容と、利便性を学ぶことができました。そしてパートナー、グループ、病棟全体で補完する事が大事なことがよくわかりました。今後、学んだことを病棟スタッフとして生かしていこうと思います。また、会場では最新の医療機器を見学することが出来、有意義な時間を過ごすことができました。

4 東病棟 宅間

e-ラーニング研修通信



今年の4月からe-ラーニング研修を導入して、3か月が過ぎました。みなさん！学習の機会は増えたでしょうか？教育委員会で必須研修と定めた研修受講については、各部署長をはじめ教育委員からの働きかけで受講率はほぼ100%です。またテストも頑張って実施していただいています。そこで、評価基準を検討した結果、教育委員会で必須研修と定めた研修は、テストは80点以上を合格点とします。また、研修をすべて受講した人に「修了証書」を発行いたします。e-ラーニング研修の受講スタイルについて、いろいろご意見のある方もいらっしゃると思いますが、まずは自己学習の環境・時間、著名な講師の研修を受ける機会などを前向きに考えて受講してみてください。自己のキャリアアップをめざし自主性・自律の向上の機会としてほしいです。まだまだ、システムについての問題点はあると思いますので、意見・感想を聞きながら評価し構築していきたいと考えています。

e-ラーニング研修「医療職に求められる社会人の基礎力」を受講して

3 西病棟 溝口

私は講義を通して、自分自身の社会人基礎力を振り返り、チーム医療における社会人基礎力育成の重要性を学びました。社会人基礎力とはさまざまな人とともに仕事を行っていくうえで必要な基礎的な能力で「前に進む力・考え抜く力・チームで働く力」が主体となる能力とそれらに対する能力要素を総合したものです。そして、医療職としては主体性や実行力を高め、自律・自立した人材育成も必要です。私は基礎力がまだ不足しており、苦手としている部分があります。また、人材育成としても十分に行動できていません。PNSを活かし、相手も主体的に行動できるように自ら一緒に考える機会を作り、共に成長できるよう自分自身のコミュニケーションやコーチングスキルについても今後、学びを深めていきたいです。

e-ラーニング研修「せん妄の理解とその対応について」を受講して

3 東病棟 濱崎

通常、院内研修では限られた時間帯の中で研修を受けなければいけません。e-ラーニングでは自分の好きな時間帯に好きな場所で(携帯で可能)学習を進めることができ、とても新鮮な気持ちで受講することができました。入院・手術により患者に生じるせん妄に対し、せん妄評価を繰り返し行いその評価に対して対応(水分管理・拘束回避・騒音の軽減・見当識の刺激、病歴・投薬・身体所見・検査結果などの確認)をしていくことが必要であることを学ぶことができました。今後も学習を通して患者さんへ看護が提供出来る様学習を深めていきたいです。

e-ラーニング研修「業務上の責任と倫理」を受講して

地域包括ケア病棟 宮内

看護助手として、患者の個人情報守秘義務を遂行し、他人に漏らさないように心がけています。業務を行う上では報告・連絡・相談を行い、情報の伝達や情報交換を行い、全スタッフが統一した対応を行う事で信頼される良い看護が出来ると思います。

私がいつも心掛けている事は、家に咲いている一輪の花をデイルームに飾る事です。花を見て、『私の家にも咲いているかなあ。早く元気になって帰らなくて』と、入院患者同士で、笑顔を浮かべながら話をされています。病院という狭い空間で療養されている中で、喜ばれている顔を見ると、心が安らぎ自分も元気になります。責任感を持ち、相手を尊重し、笑顔で患者さんに寄り添える看護助手でありたいと思います。



今後の研修のお知らせ

★基礎習得コース(スターティング・ウォーキング)

急変対応すぐやる技術(8/12~9/15配信)

★基礎習得コース(ウォーキング)

看護業務と医療安全(8/11まで配信中)

★中堅コース(ランニング)

中堅看護師の力で病棟は変わる(8/22まで配信中)

★管理者・チーム医療コース(ナースマネージャー 副師長・主任)

スタッフの自立をサポートするティーチングとコーチング(7/22~8/25配信)

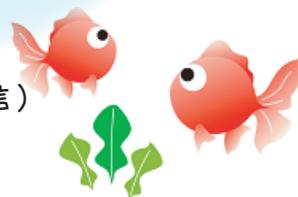
★管理者・チーム医療コース(ナースマネージャー 師長)

看護管理者の育成(8/26~9/29配信)

★看護職全員必須研修★

(看護師・准看護師)

重症度、医療・看護必要度、
記録記載のポイント
(7/21~8/18配信)



マイブーム

丁寧に日々を暮すことが得意な友人がいます。その友人の家は、いつ訪れてもどこかしらに四季を感じられる素敵なものに囲まれた空間です。その友人に誘われて「こけだま作り」を体験しました。植物用土を球状に包んで、その周りにコケを張り付けて作ります。

「コケ」になど目を向けたこともなかったのですが、足元に目を向けながら過ごしてみると、案外、ある・・・どこにでも生えています。よく見ると、苔にも色や形がそれぞれにあります。日陰で育つイメージがありましたが、思いのほか、日向で青々と育っているものもあります。

気に入った苔を数種類、面でこそぎ取り、水分を含ませておきます。園芸用の土や肥料をこねて混ぜ合わせ、好きな大きさの「どろだんご」状にします。その「どろだんご」を一か所へこませて、友人宅の庭から梅の枝やもみじ、多肉植物を分けてもらい、そこに埋め込みます。あとは周りに苔を張り付け、テグスカ手芸用糸でぐるぐる巻きにしぼって固定するだけ。好きなお皿やグラスにかざれば、室内のインテリアにも最適。

時折、作った苔玉に水をふきつけ、お世話をしていると、友人のような丁寧に暮らして近づけた気分になります。夏休みに向けてお子さんと作ってみるのもおすすめです。

外来 鶴田



ミニナラティブ

～患者としての体験を通して～

看護師になってから私自身が入院し手術を受ける経験をして、改めて患者側の立場を知ることができました。初めての入院、手術は、手術当日まで全身麻酔による合併症や麻酔から目が覚めなかったらどうしようという思いや、手術が失敗したらどうなるのだろうと色々な事を考え不安でいっぱいでした。手術後に麻酔から目が覚めた時は、無事に手術が終わってほっとしたことを思い出します。手術後は吐き気が強く、ガーグルベースンに嘔吐しました。胃液様のもので透明でしたが、それでもすぐ片付けてはもらえず、翌日までそのままでした。それを見た時はとてもつらく残念な気持ちになりました。しかし、はたして自分は看護師として患者の思いなどを考えながら、看護ケアができていたのだろうか振り返ってみると、患者の対応に対して入院から手術まで業務優先で行っていたのではないかと、患者の心に寄り添った看護ができていたと自信を持って言えないと思いました。

私が現在勤務する脳神経外科・神経内科病棟は緊急入院や手術目的で入院される患者がほとんどです。重症度の高い患者、手術前後の患者、複雑な家族背景など、様々な環境にある患者の一人一人の思いに寄り添いながら、患者が快適に入院生活を過ごし、障害受容や退院支援に関わっていきたくて改めて思いました。

4西 鍛冶屋

インターンシップ実施のお知らせ

今年も夏の恒例「インターンシップ」を行います。

期間は、8月4日(火)～5日(水)です。

当院へ興味を持ち、就職を検討してくださる方が体験に来られます。

看護部の理念や方針にそった「心こもった看護サービスの提供」を体験部署で共に体験していただきたいと思います。みんなで温かく迎えましょう。

編集後記

先のコーナーでも述べましたが、看護部の教育に今年からe-ラーニング研修を導入しました。また、新人看護師のローテーション研修のシステムをリニューアルしました。新しいことを始めたり、システムを変えたりすることは様々な準備や周囲の協力が必要であり、大変なエネルギーが必要です。ある冊子のコラムの中に、心に残る一説があったので紹介します。

ダーウィンは、「最後に生き残るのは最も強いものではなく、最も賢いものでもない。最後に生き残るのは、変化に対応できるものだけである。」と説いています。また坂本龍馬は「ただ単に変化するのではなく、時勢＝現場ニーズに応えた変化を意識しないと意味がない」と言葉を残しています。

現代社会・組織が変化していく中で働く私たちは、一人一人が意識した行動をとることが求められています。

(小牧)

